

共用品推進機構だより 2008年(03)4月18日

目次

(13) 共用品推進機構関連記事

「NHK道徳ドキュメント1 / (財)共用品推進機構 星川安之」

「これっていいかも『ポニートW』 / (財)共用品推進機構 金丸淳子」

(14) 賛助会員ニュース

「フジテレビ『わかりやすいパンフレット』について放送のお知らせ / (株)ブライト」

(15) サービス関連記事

「電動車いす貸します / グラウンドワーク都城」

(16) 行政関連記事

「『指差し会話集』作製 / 北海道運輸局」

「点字とCDで観光資料作製 / 松江市」

(17) その他、各種関連記事

「『手話で授業』全国初の学校開校 / 明晴学園」

「日本語習得カギは文法 聴覚障害者向け初の指導法冊子 / 三重県立聾学校」

「親切探して黄色い小旗 / ヘルプミー小旗の会」

「人間福祉学部 手話を選択語学に / 関西学院大」

(18) 新刊紹介

『手話によるメッセージソングベスト25』

『子どものための手話事典』

『盲導犬リチャードからのおくりもの』

『発達障害に気づいて・育てる完全ガイド』

『高齢者福祉論』

『障害者自立支援用語辞典』

『障害のある人の支援と社会福祉』

『よくわかる障害者福祉』

『盲ろう者への通訳・介助』

『家族が作る自閉症サポートブック』

(13) 共用品推進機構関連記事

「『NHK道徳ドキュメント1』発行 / (財)共用品推進機構 星川安之」

昨年NHKで放送された道徳ドキュメントを基に、命の誕生と向き合っ
て仕事をする助産師、左手のピアニスト、東京都豊島区の放置自転車をな
くすための取り組みなどを紹介。星川も「使いやすさを広めたい」に出演
した。

編：NHK道徳ドキュメント制作班

発行：汐文社

本体価格：1,600円

ISBN：978-4-8113-8476-4

「これっていいかも『ポニートW』 / (財)共用品推進機構 金丸淳子」

ベビーカーに赤ちゃんを乗せてのお出かけ。電車を使えば階段の上り下り
があるし、人ごみでの異動は周りに気を使うことも多い。赤ちゃんと外出す
るとき、少しでも楽になるよう、コンビから「ポニートW」が発売された。
軽量設計で、片手でも持ち運べるほどの軽さに加え、赤ちゃんを抱っこしな
がらでも片手でレバーを握るだけで、無理なく開閉できる。車体のぐらつき

が少なく、片手押しでも安定しているのは、お孫さんの世話をするおばあちゃんにもうれしい。

発売元：コンビ

<http://www.combi.co.jp/products/stroller/bonito/>

(シルバー産業新聞・2008年4月10日・14面より抜粋)

(14) 賛助会員ニュース

「フジテレビ『わかりやすいパンフレット』について放送のお知らせ / (株) ブライト」

現在、「後期高齢者医療制度」が問題化している。その要因のひとつに「わかりづらいパンフレット」があるといわれている。(株)ブライトが高齢者にわかりやすいパンフレットについてフジテレビの取材を受け、同局の情報番組「めざましどようび ココ調」のコーナーで放送される。

日程は下記のとおり。

4月19日(土) フジテレビ「目覚まし土曜日 ココ調」6:00～8:30

(ココ調は7:20あたり)

(15) サービス関連記事

「電動車いす貸します / グラウンドワーク都城」

NPO法人「グラウンドワーク都城」が、同市蔵原町の事務所で、高齢者らに電動車いすを貸し出す「タウンモビリティ」事業を始めた。街中を散策できるよう手助けして引きこもりを防ぐ。市内の自動車学校も協力し、学校のバスで借りたい人を無料送迎する。同法人は「高齢者に街に出てもらえれば、中心市街地もより活性化する」としている。

(読売新聞・2008年4月17日より抜粋)

(16) 行政関連記事

「『指差し会話集』作製 / 北海道運輸局」

7月の北海道洞爺湖サミットを控え、北海道運輸局は交通機関で利用できる「指差し会話集」を作製、道内のバスやタクシー会社へ配布している。会話集はA3判2つ折りタイプで英語と中国語、韓国語の3カ国語用。相手に渡して文と単語を指さしてもらい、行きたい場所や乗り場、料金などの疑問を知るのに役立つ仕組みだ。簡単なあいさつなども紹介している。

(交通新聞・2008年4月9日より抜粋)

「点字とCDで観光資料作製 / 松江市」

松江市は目の不自由な人向けの観光PR資料を作製した。点字で表記したほか、文字を大きくしたのが特徴。計7千部を全国の盲学校などに送付する。2009年度には視覚障害者の受け入れ研修も実施する予定で、きめ細かな対応で観光客の誘致につなげる狙いだ。作製したのは文字を大きくした観光パンフレットと、その点字版、内容を読み上げたCD版。

(日経MJ・2008年4月13日10面より抜粋)

(17) その他、各種関連記事

「『手話で授業』全国初の学校開校 / 明晴学園」

耳の聞こえない子どもに手話中心の授業をする全国初の学校が9日、東京都品川区に開校した。名前は「明晴学園」。聞こえない子とその親らでつくる団体「バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター」(BBED)が、統廃合で校舎が空いた旧八潮北小に開いた。一般のろう学校が補聴器を

使って聞く力を補い、日本語の聞き取りや発声をさせるのに対し、明晴学園は基本的に手話で授業。小学部に1～5年生25人、幼稚部に16人が、東京、神奈川、埼玉、静岡などから通う。
(朝日小学生新聞・2008年4月10日より抜粋)

「日本語習得カギは文法 聴覚障害者向け初の指導法冊子 / 三重県立聾学校」

日本語の文法理解が苦手な耳の不自由な子どもたちに、教師や保護者らがどう教えるかを三重県立聾学校(津市)が冊子にまとめた。同校によると、聴覚障害児の日本語習得に着目した冊子は全国初という。冊子は「聴覚障がい児にかかわる方へ2」(A5判、65ページ)。同校は15年ほど前から手話を取り入れた授業をしてきたが、文法理解が不十分だと、教科書が読めなかったり、自分で文章が書けなかったりするため、文法をどう教えるかが課題に浮上。同校や福岡、熊本の聾学校教員らが研究会をつくり、各地の取り組み報告を集め、実践を積み重ねてきた。冊子はその成果をもとに、指導法をまとめた。

(中日新聞・2008年4月12日 夕刊より抜粋)

「親切探して黄色い小旗 / ヘルプミー小旗の会」

障害者や高齢者、ベビーカーを押す母親。街中でちょっと困ったことがあっても、見知らぬ人には声をかけにくい。そんな時に小旗を出して“ひと声かけてもらおうと、世田谷区の「黄色い小旗」運動の輪が広がっている。旗の種類は「手を貸していただけませんか」や、道ばたで車を呼び止める「タクシー」など5種類になった。

(朝日新聞東京南部版・2008年4月15日31面より抜粋)

「人間福祉学部 手話を選択語学に / 関西学院大」

関西学院大(兵庫県西宮市)は今年度新設した人間福祉学部の語学科目(第2言語)に、英語やドイツ語、フランス語などと並んで手話を取り入れている。基礎的な手話をマスターすることで、ろう者とのコミュニケーションや理解を深めるきっかけにしようことが狙い。同大学によると、必修の語学科目に手話が導入されるのは全国でも珍しい。

(読売新聞・2008年4月16日より抜粋)

(18) 新刊紹介

『手話によるメッセージソングベスト25』

手話を活用した子どもの歌を、わかりやすい手話イラストとやさしい伴奏の楽譜付きで紹介する。「あの青い空のように」「ありがとう・さようなら」「犬のおまわりさん」など全25曲を収録。

編著：伊藤嘉子(いとう・よしこ)

発行：音楽之友社

本体価格：2,600円

ISBN:978-4-276-31486-3

『子どものための手話事典』

はじめて手話に触れる子どもたちのために、よく使われる基本的な手話をイラストでわかりやすく解説する。数、あいさつ、動き、人、スポーツなどのジャンル別に掲載。

監修：全日本ろうあ連盟

発行：汐文社

本体価格：3,000円

ISBN:978-4-8113-8199-2

『盲導犬リチャードからのおくりもの』

盲導犬リチャードが、視力を失った新井恵二さんと一緒に中央大学キャンパスに4年間通った表題作ほか、はたらく犬と人間の心うたれる物語、あたたかなふれあいの物語全7編を収録。

編：国松俊英(くにまつ・としひで)

発行：ポプラ社
本体価格：1,200円
ISBN:978-4-591-10123-0

『発達障害に気づいて・育てる完全ガイド』

発達障害と子供の心の発達に関する基礎知識を解説し、子供の特性を把握する基礎調査表と評価シートを掲載。家族ができること、保育園・幼稚園ができることなど、対応方法の具体例も収録する。

著：黒澤礼子（くるさわ・れいこ）
発行：講談社
本体価格：1,300円
ISBN:978-4-06-259286-4

『高齢者福祉論』

老後を取り巻く環境の激変、介護をはじめ表出する問題など、過渡期にある高齢者福祉を学ぶために、基本的知識を押さえて解説し、幅広い視野で校正したテキスト。後期高齢者医療制度に対応した第4版。

編著：杉本敏夫（すぎもと・としお）
発行：ミネルヴァ書房
本体価格：2,400円
ISBN:978-4-623-05146-5

『障害者自立支援用語辞典』

障害のある人を取り巻くさまざまな福祉施策を中心に、保健、医療、教育、就労、環境等の行政施策に関する用語約1000語をわかりやすく解説する。福祉関係者の日常業務の補助などに最適。

編：障害者福祉研究会
発行：中央法規出版
本体価格：3,000円
ISBN:978-4-8058-4801-2

『障害のある人の支援と社会福祉』

障害のある人とその家庭を支援する制度や活動、障害のある人の生活課題について解説。福祉のあゆみや障害の定義、自立生活運動の展開などにも言及する。現在の障害者福祉の状況がわかる入門書。

編著：志村健一（しむら・けんいち）岩田直子（いわた・なおこ）
発行：ミネルヴァ書房
本体価格：2,000円
ISBN:978-4-623-05047-5

『よくわかる障害者福祉』

障害者福祉をめぐるさまざまな問題や課題に焦点をあてて、障害者福祉の現象面だけではなく、障害者福祉の本質を考察するきっかけを提供。どの章、どの項目からでも読めるように、問題・課題を中心に構成する。

著：小澤温（おざわ・あつし）
発行：ミネルヴァ書房
本体価格：2,200円
ISBN:978-4-623-05164-9

『盲ろう者への通訳・介助』

一人ひとり異なるニーズをもつ盲ろう者を支援するため、これまで生み出されてきた多種多様な通訳・介助などの方法と技術をわかりやすく解説。各地域で行われている盲ろう者向け通訳・介助者養成研修会のために編集されたもの。

編著：全国盲ろう者協会
発行：読書工房
本体価格：1,600円
ISBN:978-7-902666-17-5

『家族が作る自閉症サポートブック』

自閉症をもつ子どもの状態を家族以外の支援者にわかりやすく伝える方法、サポートブック。その必要性を解説し、作り方を紹介します。7名の子どもの家族が作ったサポートブックの事例も収録。

編著：服部陵子（はっとり・りょうこ）宮崎清美（みやざき・きよみ）

発行：明石書店

本体価格：1,300円

ISBN:978-4-7503-2767-9

（編集後記）

- ・皆様方のおかげで、共用品推進機構は昨日から設立10年目に入りました。あっという間の9年間でした。
- ・10年前、4800億円だった共用品市場規模は、2006円3兆円を超えました。
- ・10年前、高齢者・障害者配慮設計指針シリーズのJIS規格はわずか一つであったのが、現在28種類になりました。
- ・これからの10年は、継続して共用品の基盤を作ると共に、新たな事にも更に立ち向かっていきたいと思っています。（星川）
<http://kyoyohin.org/>